

海軍公報 第三千八百八十六號

昭和十二年十一月一日(月)
海軍大臣官房

○通牒

官房第五五六三號

昭和十二年十一月一日

海軍次官

各廳長殿

職員配置表ノ件照會

爾今左記ニ據リ貴廳ニ於ケル職員配置表調製海軍省人事局ニ送付相成度

記

一、海軍艦政本部、海軍航空本部、水路部、各海軍軍需部及各工作廳ニ於ケル職員配置表ノ様式送付期日等ハ昭和十一年艦本第二七八八號ニ準據シ調製ノコト

二、其ノ他ノ各廳ニ在リテハ事務系及技術系ノ文官竝ニ闕託者(判任官待遇以上ノ者)ノミトシ毎年十二月十日現在ヲ以テ其ノ月ノ末日迄ニ調製送付ノコト様式等ハ任意トス

恩第三九三號

昭和十二年十一月一日

海軍省人事局

關係各廳御中

支那事變應召者ハ恩給受給權調査票ノ提出ヲ要セザル件通知

普通恩給受給者ニシテ支那事變ノ爲昭和十三年一月一日現ニ應召中ノ者ハ恩給法施行令第一條ノ二及第一條ノ三ノ規定ニ依リ同年一月提出スベキ恩給受給權調査票(戶籍抄本共)ノ提出ヲ要セザル旨内閣恩給局ヨリ通知有之候條該當者ニ可然示達相成度尙右ニ對シテハ昭和八年恩第四〇九號通知ニ依ル證明ヲ要セザルニ付了知相成度

恩第三九四號

昭和十二年十一月一日

海軍省人事局

關係各廳御中

恩給受給權調査ニ關スル件通知
昭和八年十二月二十日附恩第四〇九號首題ノ件通知中
様式以下ヲ左記ノ通改メ候

記

恩給受給權證明書

恩給證書ノ 記號番號	現官職名	氏	名

右者當應ニ勤務シ恩給法第九條第一項第一號及第三號
ニ該當セザルモノナルコトヲ證明ス

年 月 日

職 氏 名

職印

備考

一、廳長ハ當該年ノ一月十日現左勤務ノ者ニ付恩給證
書ヲ呈示セシメ恩給受給權者タルコトヲ確認シタル
上同日附ニテ證明ヲ爲スモノトス

二、恩給證書ノ記號番號ハ「ト九一、八二七」ノ如ク、
「現官職名」ハ勤務應ニ於ケル身分ニヨリ判任官以上
ノ官ニ在ル者及文官待遇者（部内限ノ待遇者ヲ含マ
ズ）ハ其ノ官名ヲ、其ノ他ハ「囑託」、「雇員」、「備
人」、「工員」ノ如ク記載スルコト

三、恩給證書受領後改氏名ノ者ハ氏名ノ左側ニ「(舊姓
何)」、「(舊名某)」ト朱記スルコト

四、法令ニ依リ海軍各廳ノ管理ニ屬スル組合等ノ勤務
者ニ對シテハ部内各應勤務者ノ例ニ依ル當該組合等
ノ管理官（又ハ管理事務分掌官）タル廳長之ガ證明
ヲ爲スコトヲ得

五、證明書ニ記載セラレタル者ハ各本人ヨリ受給權調
査票竝ニ戸籍抄本ヲ内閣恩給局ニ提出スルヲ要セズ

(昭和八年恩第四〇九號ハ海軍會計法規類集中卷七六九頁ニ在リ)

(参照)

◎恩給法

第九條 年金タル恩給ヲ受クルノ權利ヲ有スル者左ノ各號ノ一ニ該
當スルトキハ其ノ權利消滅ス

一 死亡シタルトキ

二 (略)

三 國籍ヲ失ヒタルトキ

(以下略)

第九條ノ二 裁定官廳ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ年金ヲ受クルノ權利

ヲ有スル者ニ付其ノ権利ノ存否ヲ調査スヘシ

◎恩給法施行令
第一條 恩給法第九條ノ二ノ規定ニ依ル恩給受給権存否ノ調査ハ受給者ノ身分關係ノ變動ノ有無ニ付之ヲ行フ

(以下略)

第一條ノ二 受給者ハ左ノ區別ニ從ヒ調査上必要ナル書類ヲ裁定官
ニ提出スベシ

一 前條第一項ノ事實ヲ證スル爲ニハ公務員又ハ之ニ準ズベキ者
及妻ニ在リテハ戸籍抄本、妻以外ノ扶助料權者ニ在リテハ戸籍
謄本

二 (略)

前項ノ書類ハ事實カ裁定官顯ニ顯著ナル場合又ハ他ノ相當官公署
ノ證明アル場合ニ於テ裁定官廳方明カニ之ヲ承認シタルトキハ其
ノ承認ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第一條ノ三ニ規定スル書類ヲ提出スベキ月ガ恩給ノ裁定ヲ受ケタ
ル月(證書ノ日附ニ在ル月)ノ翌月ヨリ十二月内ニ在ルトキハ其
ノ書類ヲ提出スルコトヲ要セズ

第一條ノ三 各受給者ハ前條ノ書類ヲ左ノ區別ニ從ヒ隔年提出スベシ

一 公務員又ハ之ニ準ズベキ者トシテ恩給ヲ受クル者ハ一月

二 遺族トシテ恩給ヲ受クル者ハ七月

陸軍ノ軍人、之ニ準ズベキ者及警察監獄職員並其ノ遺族ハ昭和ノ
個數年ニ於ケル前項ノ月ニ提出シ他ノ公務員及之ニ準ズベキ者並
ニ其ノ遺族ハ其ノ奇數年ニ於ケル前項ノ月ニ提出スベシ

第一條ノ四 第一條ノ二ニ規定スル書類ヲ提出セザル受給者ニ對シ
テハ之ヲ提出スベキ月ヨリ一期隔リタル後ノ支給期以後ノ支給ヲ
一時差止ムベシ

◎恩給給與細則
第十二條 恩給法施行令第一條ニ規定スル恩給受給權調査票ハ別紙
様式(第二十五號書式)ニ準シ作成スヘシ

第二十五號書式

恩給受給權調査票

一、恩給證書ノ記號番號

一、受給者住所氏名

一、受給權調査期間

昭和 年 月

備考 用紙ハ成ル可ク半紙四ツ切大又ハ半切大トスルコト

○ 辭 令

(各通)

武功調査事務囑託ヲ解ク(計三〇〇海軍省)

海軍中佐 岡野 俊孝
海軍大尉 松 本 健
海軍技手 伊 東 祐基

給四級俸

海軍艦政本部勤務兼横須賀海軍工廠勤務

同 大庭 久雄

横須賀海軍工廠附ヲ命ス

同 伊 東 祐基

依願免本官(以上十二名同)

海軍主計少佐 石 淵 知定

第三課勤務ヲ命ス(計三〇〇海軍省經理局)

○雜款

○命名式舉行

一、左記ニ依リ報國號飛行機ノ命名式ヲ舉行セラレ

記

二、飛行機番號名稱共ノ他

報國號	名	機	種	獻納者
第一番號	第一	九六式	艦上爆撃機	熊本縣々民
第二番號	第二	同	同	同
第三番號	第三	同	同	同
第四番號	第四	同	同	同

三、日時(開式時刻)

十一月九日(火、晴雨ニ不拘)午前十時三十分

四、場所 熊本市渡鹿練兵場

(海軍省副官)

○電話架設

海軍省軍需局第二課長海軍機關大佐福地英男宅(半込區市ヶ谷加賀町一ノ一五)

半込(34) 五七三〇番

○試験問題發送

第五十七期高等科機關術 練習生採用試験問題
第四十八期高等科電機術

右十月三十日左記ノ通發送濟、未着ノ向又ハ別ニ必要ノ向ハ御通知相成度

記

一、單獨試驗施行豫定ノ各部ニハ直送セリ

二、聯合試驗用ノモノハ各海軍人事部首席部員及各要港部副官宛送付但シ旅順要港部所屬艦船ニハ直送

三、聯合試驗參加豫定ノ艦船ニシテ行動豫定變更ノ爲

聯合試驗參加不能ノ向ニ對スル分トシテ前記諸官宛

單獨試驗問題若干部送付シ置ケリ

(海軍工機學校)

○振替貯金口座番號表中左ノ通改正ス

馬公海軍共濟組合購買所ノ項ノ次ニ

臺灣總督府内 海軍武官室 同 七、〇五一

ヲ加フ

(海軍省經理局)

(會規下卷七〇七頁參照)

退役海軍主計大佐正五位勳三等功四級餘江源太郎
十月二十八日卒去、同三十日東京市目黒區上目黒八
ノ六八〇自宅ニ於テ佛式ニ依リ告別式執行セリ

9765

海軍公報 第三千八百八十七號

昭和十二年十一月二日(火)
海軍大臣官房

○雜款



電話架設
海軍艦政本部總務部第三課長海軍大佐清宮弘宅(世田谷區深澤町一丁目一〇九九)
世田谷 三七〇一番

○改名
大村海軍航空隊附海軍中尉高木正雄ハ隆臣ト改名ノ旨
去月十四日届出テタリ

退役海軍機關中尉從六位勳五等中村兼徳十月二十
九日佐世保市赤崎自宅ニ於テ死去セリ

海軍公報 第三千八百八十七號 昭和十二年十一月二日

(號外四頁)六七一

海軍公報 號外

昭和十二年十一月二日(火)
海軍大臣官房

○雜款

○國民精神總動員
國民精神總動員ノ普及徹底ニ關スル件及國民精神總動員「防火デー」運動ニ關スル件ニ關シ左ノ通通知アリ

(別紙)

内閣閣甲第二四〇號

昭和十二年十月二十八日

内閣書記官長 風見 章

海軍次官 山本五十六殿

國民精神總動員ノ普及徹底ニ關スル件

標記ノ件ニ關シ本日常官會議ニ於テ別紙ノ通申合有之候條實施方可然御配意相煩度

追テ貴省管下各廳ニ對シテモ通達方可然御取計相成度

國民精神總動員ノ普及徹底ニ關スル件

(一・二・一〇・二八)
(次官會議決定)

海軍公報 號外

國民精神總動員ノ趣旨及之ガ實踐事項ノ普及徹底ヲ圖ル爲、之ヲ各廳總掛リニテ行フ趣旨ニ依リ今後各廳ニ於テハ左記事項ヲ實施ス

記

一、國民教化運動方策ニ基キ政府總掛リ的ニ行フ宣傳(甲號宣傳)及各廳計畫ニ依リ行フ宣傳(乙號宣傳)各廳限ノ必要ニ依リ概ネ其部内ニ對シテ行フ宣傳(丙號宣傳)其他各廳關係地方廳ニ於テ行フ各種宣傳ハ總テ國民精神總動員ノ趣旨ニ立脚シテ之ヲ實施スルコト
又各廳及其地方廳關係ノ各種民間團體ニ於テ行フ各種宣傳ニ對シテモ同様ノ趣旨ヲ以テ適宜指導スルコト
之ガ爲少クトモ次ノ事項ヲ勵行スルコト
1. 各種宣傳ニ對シテハ例ヘバ「國民精神總動員」○「週間」ノ如ク宣傳ノ名稱ニ國民精神總動員ノ文字ヲ冠スルコト

2. パンフレット、ポスター、ビラ等ニハ必ズ國民

精神總動員ノ文字ヲ表ハスコト

二、各廳及其地方廳ニ於テ發行スル各種機關紙ニハ必ズ國民精神總動員ノ文字ヲ印象的ニ表ハスト共ニ編輯上ニ於テモ適切ナル考慮ヲ拂フコト

關係民間團體ノ機關紙ニ對シテハ同様ノ趣旨ヲ以テ適宜指導スルコト

三、其他各廳ニ於テ行フ大衆的普及力アル施設(例ヘバスタンブ、煙草、切符等々)ニ就テハ之ヲ國民精神總動員ノ普及宣傳ノ爲ニ利用ヲ圖ルコト

內務省發警第六三號

昭和十二年十月二十八日

內務次官

海軍次官殿

國民精神總動員「防火デー」運動ニ

關スル件

本年十二月一日ヲ期シ國民精神總動員運動ノ一部トシテ別紙計畫ニ基キ防火宣傳ヲ實施シ以テ資源愛護ノ精神ノ涵養ニ努メ度候ニ就テハ貴省各關係方面ニ於テモ御協力ヲ得度此段及照會候

(別紙)

防火デー計畫要綱

一、主催

內務省各廳府縣並財團法人大日本消防協會協同其ノ他朝鮮、臺灣及樺太廳ニ對シテモ協力方要請ス

二、實施日

昭和十二年十二月一日(尙地方ノ實情ニ依リテハ十二月一日、二日ノ兩日)

三、範圍

全國各廳府縣ノ區域全般

四、方法

(一) 令旨奉讀、國防及防火祈願祭

當日午前中消防組ニ於テハ夫々非常召集、令旨奉讀、國防及防火祈願祭等ヲ執行スルコト

(二) 宣傳方法ノ標準

(イ) 新聞紙ニ依ル宣傳(地域内ノ日刊新聞社ト協定シニユース共ノ他ノ紙面ヲ利用スルコト)

(ハ) 防火講演會及活動寫眞

(ニ) 屋外講演並防禦避難演習ノ實施

(ホ) 興業場並デパート等利用ニ依ル宣傳

- (ホ) ポスターニ依ル宣傳
 - (ヘ) 消防自動車其ノ他ノ車輛ニ依ル宣傳
 - (ト) 消防音楽隊其ノ他音楽ニ依ル宣傳
 - (チ) ラヂオニ依ル宣傳
 - (三) 消防組員活動ノ例示
 - (四) 火ノ元検査、消火器、非常口等ノ一齊検査
警察官吏消防官吏ノ活動例示
火氣取扱場所ノ一齊検査、消防施設、避難施設ノ一齊検査
 - (五) 避難演習、火防講話及街頭行進
 - (イ) 各種學校學生生徒及小學兒童ノ避難演習火防講話及街頭行進
 - (ロ) 工場、病院、百貨店等ニ於ケル避難演習及火防講話
 - (六) 防火展覽會
以上ノ内
イ、講演
知事、警察部長ニ於テ成ルベク講演スルノ外警察部各課長、各警察署長又ハ消防署長等ヲシテ隨處ニ講演セシムルコト
ロ、ラヂオニ依ル宣傳
-
- ハ、各種學校ニ於ケル火防講話及避難演習等
 - (A) 火防講話
 - 一、十二月一日ニ行フコト
 - 二、校長又ハ其ノ代理者ヲシテ行ハシムルコト
 - (B) 避難演習
 - 一、十二月一日ニ行フコト
 - 二、校長又ハ其ノ代理者ノ指揮ノ下ニ行ハシメ警察消防職員ハ之ニ協力援助スルコト
 - (C) 宣傳ビラ
 - 宣傳ビラハ内務省並財團法人大日本消防協會本部ニ於テハ之ヲ作成セザルニ付各後援團體等ト提携シテ作成セシメ學校當局ヲ通ジテ兒童ヲシテ家庭ニ持歸ラシメ或ハ火ノ元検査ノ際配布スル等ノ方法ニ依リ頒布セラレタキコト
 - ニ、防火ポスター
ポスター一種ハ財團法人大日本消防協會本部ニ於

テ作成スベキニ付適當ノ場所ニ掲出スルコト但シ
右ホスターノ配布ハ極少數ニ付豫算ノ許ス限リ應
府縣支部又ハ消防後援團體等ヲシテ補充作成セシ
メラレタキコト

ホ、消防組員ノ活動

- 一、各家庭ニ於テ火氣ヲ取扱フ場所其ノ他火ノ元
検査ヲ勵行シ火災豫防ノ趣旨徹底ニ努ムルコト
 - 二、消防自動車其ノ他車輛等ニ依リ適當ナル旗幟
ヲ用ヒ行進スル等運動ノ趣旨徹底ニ努ムルコト
 - 三、以上消防組員ノ活動ニ對シテハ警察消防官吏
ハ之ヲ指導援助シ實功ヲ擧グル様努力スルコト
- ハ、其ノ他

- 一、活動寫真館、劇場、寄席等ニ於ケル興行ノ類
ニシテ防火運動ニ利用シ得ベキ題材アラバ努メ
テ之ヲ行ハシムル様當業者ト懇談スルコト
- 二、市町村當局、在郷軍人、青少年團、處女會其
ノ他ノ團體ニ對シ協力ヲ求ムルコト
- 三、興行場ニ在リテハ懸垂幕、スライド映寫等ノ
方法、デパート、遊園地、汽車、電車、其ノ他
多衆ノ出入スル場所ニハホスター及標語ノ揭示
等各經營者等ト交渉シ協力セシムル様懇進スル

コト
四、其ノ他地方ノ實狀ニ稽ヘ適當ナル宣傳ヲ行フ
コト

海軍公報 第三千八百八十八號

昭和十二年十一月四日(木)
海軍大臣官房

○令達

官房第五四五二號ノ二
本年官房第五四五二號中「昭和十二年内令第六百九十三號」ノ次ニ「同 第七百三十八號」ヲ加フ
昭和十二年十一月二日
海軍大臣

○通牒

官房第五〇八八號ノ三
昭和十二年十一月四日
海軍省副官

關係各廳長殿

國民精神總動員運動ニ協力方ノ件申進
本年官房第五〇八八號ノ二ニ依ル次官通牒ニ基キ國民精神總動員運動ニ關係アル講演會ニ對シ海軍軍事普及部、各海軍人事部等ヨリ協議ノ際ハ出來得ル限り之ニ

協力ノコトニ取計相成度

(十月七日海軍公報號外参照)

○辭令

海軍經理學校ニ於ケル獨逸語教授囑託ヲ解ク(計十前海軍省)
近藤 壯平
海軍中佐 小林 淑人

海軍文庫ニ於ケル事務ヲ囑託ス(計四同)

海軍主計中佐 奥田 司

第一課兼第二課第三課勤務ヲ命ス(計四海軍省軍需局)

佐藤 誠一

軍令部ニ於ケル編纂事務ヲ囑託ス

但シ報酬月額八拾圓ヲ給シ部内限判任官ヲ以テ待遇セラル(計七軍令部)

野口 正之

軍令部ニ於ケル編纂事務囑託ヲ解ク(計四同)

海軍公報 第三千八百八十八號 昭和十二年十一月四日

六七三

○ 雜 款

○命名式舉行
左記ニヨリ各報國號飛行機ノ命名式ヲ舉行セラル

(一) 飛行機番號名稱其ノ他

報國號	名 稱	機 種	獻 納 者
第三二號	第一西日本號	九六式艦上爆撃機	福岡日々新聞社
第三三號	第二西日本號	同 右	同 右
第一五〇號	福岡縣產業組合號	同 右	福岡縣產業組合

(二) 日 時 (開式時刻)

十一月七日 (日曜) 午後二時

(三) 場 所

福岡第一飛行場 (福岡縣糟屋郡和白村奈多)
(海軍省副官)

○着任、退廳

新任 水路部第五課長 海軍大佐 岸人 三郎 十月五日着任
前任 水路部第五課長 海軍大佐 田代 蘇平 同日退廳

○住所並電話番號變更
海軍省電信課長海軍大佐黒瀬浩宅
住 所 目黒區鷹番町一五五
電 話 荏 原 六〇六三番

海軍公報 第三千八百八十九號

昭和十二年十一月五日(金)
海軍大臣官房

○令 達

官房第四四九六號ノ五

昭和七年官房第六五七號及昭和十二年官房第四四九六號中左ノ通改正ス

昭和十二年十月二十六日

海軍大臣

海軍大臣

左表中備考末尾(官房第四四九六號ニ對シテハ三トシテ)ニ左ノ通加フ

所屬長官ハ必要ニ應ジ海軍大臣ノ承認ヲ受ケ設置所以外ノ部下艦船部隊ニ職員ノ一部ヲ派出シ軍事郵便事務ヲ取扱ハシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ之ヲ第一派出所、第二派出所等ト稱ス

(參照) 昭和七年官房第六五七號及昭和十二年官房第四四

九六號ハ海軍軍用郵便所設置ノ件ナリ (諸例則) 卷一、四三七頁及昭和十二年九月一日海軍公報

官房第五六二〇號

支那事變ニ關シ海軍工作應等ニ於テ其ノ作業ヲ大部分ノ工員ヲ以テ長期ニ亘リ連續定時間終業後三時間増服業ニ依リ實施スル場合ハ三時間殘業者ニ限リ海軍工員規則第四十六條第一項ニ定ムル定時間終業後ノ休憩時間並ニ二時間殘業終了時ノ食事及休憩時間ヲ廢シ定時間終業後二十分ヲ以テ食事及休憩時間ニ充ツルコトヲ得

昭和十二年十一月五日

海軍大臣

海軍公報 第三千八百八十九號 昭和十二年十一月五日

六七五

海軍公報 第三千百九十號

昭和十二年十一月六日(土)
海軍大臣官房

○令 達

官房第五六三三號

昭和十三年度各種學生ノ任命時期ヲ左ノ通定ム

昭和十二年十一月六日

海軍大臣

- 海軍大學校 選科學生
 - 海軍潜水學校 乙種學生
 - 同 機關學生
 - 海軍工機學校 專攻科學生
 - 海軍軍醫學校 選科學生ノ一部
 - 海軍練習航空隊 飛行學生
 - 同 特修科學生
 - 右以外ノ各種學生 追テ定ム
- 十二月一日

○辭 令

(各通)

海軍兵學校ニ於ケル教授ヲ囑託ス

但シ報酬年額千貳百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(計三師海軍省)

井桁 貞敏
野口 正之

海軍艦政本部ニ於ケル勞務關係事務ヲ囑託ス

海軍大佐 一法師 喜雄
同 北村 榮虎

海軍軍事普及事務囑託ヲ解キ高松地方海軍人事部ニ於ケル軍事普及事務ヲ囑託ス

同 村松 定矩
同 千知波 長次
同 富田 賢四郎

海軍軍事普及事務囑託ヲ解キ佐世保海軍人事部ニ於ケル軍事普及事務ヲ囑託ス

海軍少佐 橋 春 精

高松地方海軍人事部ニ於ケル軍事普及事務ヲ囑託ス

海軍公報 第三千百九十號 昭和十二年十一月六日

同 首藤 茂
 佐世保海軍人事部ニ於ケル軍事普及事務ヲ囑託ス
 海軍大尉 高橋 元資
 海軍軍事普及事務囑託ヲ解キ佐世保海軍人事部ニ於ケル軍事普及事務ヲ囑託ス
 海軍機關大佐 三木 貞治郎
 海軍軍事普及事務囑託ヲ解キ高松地方海軍人事部ニ於ケル軍事普及事務ヲ囑託ス
 海軍機關中尉 水口 倅太郎
 佐世保海軍人事部ニ於ケル軍事普及事務ヲ囑託ス
 (以上対同)

○ 雜 款

○命名式舉行
 左記ノ通報國號飛行機ノ命名式ヲ舉行セラル

記

飛行機名	量數	報 國 號	獻 納 者
九六式 艦上戦闘機	一	報國第一三七號 (第一慶北號)	朝鮮慶尙北道民有志
九六式 艦上爆撃機	一	報國第一三八號 (第二慶北號)	右 同

期 日 十一月十三日(土曜) 午後二時
 (晴雨ニ不拘)
 場 所 朝鮮大邱飛行場

飛行機名	量數	報 國 號	獻 納 者
九六式 艦上爆撃機	一	報國第一五一號 (全北號)	朝鮮全州府嶺紡埋立地

期 日 十一月十四日(日曜) 午後二時三十分
 場 所 朝鮮全州府嶺紡埋立地
 (海 軍 省 副 官)

○進水
 驅逐艦峯雲本月四日株式會社藤永田造船所ニ於テ進水セリ

驅逐艦朝雲本月五日株式會社川崎造船所ニ於テ進水セリ

海軍公報 第三千九十一號

昭和十二年十一月八日(月)
海軍大臣官房

○令 達

海軍
訓令
第五六七一號

大正五年官房第三七八二號中「第二條第五號」ヲ「第三條第六號」ニ改メ第二號、第三號、第四號ヲ左ノ如ク改ム

- 一 海軍通信隊ニ勤務スル遞信省官吏
- 二 特設艦船乗組ノ軍屬タル船員
- 三 海軍部内囑託者及職手以上ノ海軍工員ニシテ機密書類ノ取扱又ハ機密工事ノ設計若ハ實行其ノ他機密ノ事務又ハ業務ニ従事スルモノ
- 四 昭和十二年十一月八日

海軍大臣

(参照) 大正五年官房第三七八二號ハ海軍軍屬宣誓規則ニ依リ宣誓ヲ爲サシムヘキ者ノ指定ノ件ナリ(諸例則卷二、八四頁)

○通 牒

航本第三六〇九號

昭和十二年十一月一日

海軍航空本部長

關係各廳長殿

陸海軍航空材料規格ノ件通牒

首題規格別冊ノ通決定ス

追テ本規格ハ左ノ要領ニ依リ昭和十三年度以降之ヲ適用ス

陸海軍航空材料規格實施要領

- 一、本規格ハ昭和十三年度以降ノ新製品ニ之ヲ適用ス但シ舊規格ニ依ル在庫材料ニ對シテハ別冊對照表ニ依リ新規格材料名ニ打刻換ヲ行フモノトス
- 二、昭和十三年度以降特ニ本規格ニ依リ難キモノアル場合ハ事情ヲ具シ航空本部長ノ承認ヲ得ルモノトス
- 三、從來ノ規格ニシテ廢止ノ指令ナキモノハ當分ノ間存續ス
- 四、規格外材料ノ使用ニ關シテハ理由ヲ具シ航空本部

海軍公報 第三千九十一號 昭和十二年十一月八日

六七九

長ノ承認ヲ得ルコト從來通トス
 五、本規格及之ニ相當セル現行海軍造船機造兵主要
 材料試験検査規則（航空機之部）及同假規格トノ對
 照表別冊ノ通
 別冊ハ所要ノ向ニ之ヲ配付ス

○ 辭 令

蜂谷 茂雄

海軍艦政本部ニ於ケル造船造兵監督業務囑託ヲ解ク
 （ハ四海軍省）

○ 雜 款

海軍技師從五位勳六等久保田正雄本月六日卒去、
 本八日午後一時ヨリ同二時迄東京市本郷區彌生町
 三はノ一一號自宅ニ於テ佛式ニ依リ告別式執行

海軍公報 第三千九十二號

昭和十二年十一月九日(火)
海軍大臣官房

○辭令

海軍艦政本部ニ於ケル造機業務囑託

鬼頭 史城

海軍艦政本部第五部ニ於ケル業務竝ニ海軍技術研究所造船研究部ニ於ケル業務ヲ囑託ス

但シ報酬年額千四百七拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(海軍省)

海軍機關中佐 野口 六郎

第三課勤務ヲ命ス(海軍省教育局)

○雜款

○米國軍艦來航豫定

驅逐艦「ブルマー」

地名 着

横濱 十一月十三日

驅逐艦「パロット」

十一月二十日

上海ヨリ來航

發 記事

地名 着

横濱 十一月二十六日

十二月四日

上海ヨリ來航

發 記事

海軍公報 第三千九十二號 昭和十二年十一月九日

海軍公報 第三千九百九十三號

昭和十二年十一月十日(水)
海軍大臣官房

○通牒

恩第四〇三號

昭和十二年十一月十日

海軍省人事局長

關係各廳長殿

支那事變戰死者ニ對スル恩給及賜金關

係書類ニ關スル件照會

首題ノ件ニ關シテハ夫々整備中ノコトト存候處扶助料、賜金等遺族ニ對スル恩典ノ遲滯ナク行ハルルト否トハ受給者ハ勿論一般部外關係ニ於テモ影響尠カラザルヲ以テ可及的速ニ之等下付ニ關スル措置致度ニ付所要書類進達方促進相成度

○辭令

故海軍一等機關兵曹相田松夫父

相田 徳次

昭和二年勅令第五十七號ニ依リ金七百五十拾圓ヲ給與ス(當時海軍省)

第一課勤務ヲ命ス

海軍機關少佐 川内 鎮敏

同 中筋 藤一

第二課勤務ヲ命ス(以上當時海軍省軍需局)

○雜款

後備役海軍少將從四位勳三等關 重光昨九日卒去、明後十二日午後二時神奈川縣小田原町十字町大久寺ニ於テ佛式ニ依リ葬儀執行

9779

海軍公報 第三千九十四號

昭和十二年十一月十一日(木)
海軍大臣官房

○通牒

經給第七五號

昭和十二年十一月十一日

海軍省經理局

關係各廳御中

前金拂旅費計算表中改訂ノ件通知

昭和十年七月當局編纂ニ係ル首題ノ表中「鳳山無線電信所」ヲ「~~鳳山~~通信隊」ニ、「第十七表自津(三重縣)至東京」ヲ「第十六表東京・津(三重縣)相互間」ニ改メ第十六表ヲ削ル

同表第十表及第十一表中三等乃至五等ノ項、第三十一表乃至第三十六表並ニ第三十七表乃至第四十表中七等、八等ノ項ヲ各別表ノ通改ム

(別表ハ所要ノ向ヘ配布ス)

○雜款

海軍按手正八位長岡督ハ陸軍工兵少尉トシテ應召中去月二十六日戰死セリ

海軍公報 第三千九十四號 昭和十二年十一月十一日

六八五

9780

海軍公報

第三千九百九十五號

海軍大臣官房

昭和十二年十一月十二日(金)

○ 辭令

 海軍機關少佐 川内 鎮敏
購買名簿調査委員會委員ヲ命ス(註海軍省)

○ 雜款

退役海軍大將正二位勳一等功二級男爵瓜生外吉昨
十一日薨去、明十三日午後一時青山齋場ニ於テ基
督教式ニ依リ海軍葬儀、午後二時三十分ヨリ同三
時三十分迄告別式執行

海軍公報 第三千九百九十五號 昭和十二年十一月十二日

六八七

海軍公報 第三千九十六號

昭和十二年十一月十三日(主)
海軍大臣官房

○通牒

經給第七六號

昭和十二年十一月十三日

海軍省 經理局

關係各應御中

所在不明者ニ對スル俸給支給區分ニ

關スル件通牒

軍人、文官及同待遇者ニシテ正當ノ事由ニ因リ所在不明ト爲リタルモノニ對スル死亡認定ノ場合ニ於ケル俸給ハ死亡ノ認定ヲ爲シタル日又ハ屍體ヲ發見シタル日迄之ヲ支給ス但シ死亡ノ認定ヲ爲シ又ハ屍體ヲ發見シタル當月死亡シタルモノト認定セラレタルトキハ其ノ月末日迄之ヲ支給スルコトニ取扱一定ス

○辭令

○雜款

海軍特務大尉 中澤澤一郎
佐世保海軍人事部ニ於ケル職業輔導業務ヲ囑託シ報酬年額七百八拾圓ヲ給ス(旨請海軍省)

○正誤

○齊

本月十一日通牒欄經給第七五號中「鳳山通信隊」ハ「高雄通信隊」ノ誤

海軍公報 第三千九百七十七號

昭和十二年十一月十五日(月)
海軍大臣官房

○辭令

海軍艦政本部勤務兼造兵監督助手

海軍技手 楠 厚

吳海軍工廠附ヲ命ス

海軍艦政本部勤務同 山根 廣吉

佐世保海軍工廠附ヲ命ス

同 村上 了三

兼海軍艦政本部造兵監督助手ヲ命ス

大野 昌次郎

海軍燃料廠探炭部教習所ニ於ケル理科教授ヲ囑託ス

但シ報酬年額七百貳拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇

トス(以上皆海軍省)

○雜款

○移轉
海軍省副官兼海軍大臣秘書官海軍少佐實松讓宅

麴町區霞ケ關二ノ一官舎(電話 銀座四六〇五番)
前海軍省副官兼海軍大臣秘書官海軍少佐松永敬介宅
世田谷區若林町六〇四

○學生入隊期日

來十二月一日任命セラレベキ當隊飛行學生ハ十二月八日始業式ノ豫定ニ付同七日迄ニ着任セシメラレ度
(霞ケ浦海軍航空隊)

後備役海軍中佐從五位勳四等岩水宗彦昨十四日卒去、明後十七日午後一時ヨリ神奈川県鎌倉市大町二二二一自宅ニ於テ佛式ニ依リ葬儀、同二時ヨリ三時迄告別式執行

退役海軍主計少將正五位勳三等島崎廉平一昨十三日卒去、明十六日午後二時東京市荏原區中延町一〇三一自宅ニ於テ佛式ニ依リ葬儀執行

海軍公報 第三千九十八號

昭和十二年十一月十六日(火)
海軍大臣官房

(本紙下引換ノ上舊紙ハ適宜焼却相成度)

○令達

官房第五四五二號ノ三

本年官房第五四五二號中「同 第七百三十八號」ノ次

ニ「同 第七百九十三號」ヲ加フ

昭和十二年十一月五日

海軍大臣

(参照 十月二十七日本報)

官房第五八〇〇號

大正十年官房第二〇五八號中左ノ通改正ス

昭和十二年十一月十六日

海軍大臣

第二項中「第二條ノ二及」ヲ削ル

(諸例則卷三、二七三頁参照) ✓

○通牒

官房第五八〇九號

昭和十二年十一月十六日

海軍次官

各廳長殿

年賀狀廢止ニ關スル件通牒

首題ノ件次官會議ニ於テ申合ニ付別紙ノ通内閣書記官

長ヨリ通牒有之候條可然取計相成度

(別紙)

内閣閣甲第二九〇號

昭和十二年十一月十一日

内閣書記官長 風見章

海軍次官 山本五十六殿

年賀狀廢止ニ關スル件

標記ノ件本日次官會議ニ於テ左記ノ通申合有之候條爲

念此段及通牒候

追テ貴省管下各廳ヘモ可然通達相成度

記

海軍公報 第三千九十八號 昭和十二年十一月十六日

六九三

海軍諸例
則登載

海軍公報 第三千九十八號 昭和十二年十一月十六日

六九四

時局ニ鑑ミ官吏ハ年賀狀ヲ廢止スルコト

○雜款

○命名式舉行
左記ニヨリ各報國號飛行機ノ命名式ヲ舉行セラル

記

報國號	名稱	機種	獻納者
第一四〇號	大阪有本號	九六式 艦上戦闘機	大阪市東區大田町 有本國造

日時(開式時刻)

十一月十八日(木曜)午後二時(晴雨ニ不拘)

場所

大阪市城東練兵場

二、

報國號	名稱	機種	獻納者
第三九號	愛國婦人會	九四式 水上偵察機	愛國婦人會兵庫縣 支部會員
第五三號	海軍協會	九五式 水上偵察機	海軍協會兵庫縣支 部婦人部

日時(開式時刻)

十一月十九日(金曜)午後二時(晴雨ニ不拘)

場所

神戸市税關第四突堤

(海軍省副官)

支那事變戰死者故海軍二等兵曹河野松夫外二十三
名ノ合同海軍葬儀ヲ本十六日午後二時佐世保矢岳
練兵場(雨天ノ際ハ凱旋記念館)ニ於テ佛式ニ依
リ執行

海軍公報

第三千九十九號

海軍大臣官房

昭和十二年十一月十七日(水)

○令達

官房第五八二一號

左記ニ依リ昭和十三年十一月海軍兵學校、海軍機關學校、海軍軍醫學校、海軍經理學校各選修學生ヲ採用ス

昭和十二年十一月十七日

海軍大臣

記

一、學術試驗期日 昭和十三年一月中旬

二、學術試驗科目及程度

國語(中學校第二學年終了程度)

漢文(同) 右)

作文(同) 右)

算術(同) 右)

代數(同) 右)

術科(主トシテ候補者ノ特修術科ニ關スル事項)

三、候補者人名及其ノ所轄ヲ學校長ニ通知期
昭和十二年十二月十五日

四、勤務日數最終計算期日
昭和十三年十一月一日

五、候補名簿及選拔表進達期
昭和十三年七月三十一日

六、候補者年齡

三十三年以下但シ海軍軍醫學校選修學生ハ三十四年以下

○辭令

陸軍工兵少尉 齋藤 亥三雄

海軍艦政本部第三部ニ於ケル業務ヲ囑託ス

但シ報酬年額千四百七拾圓ヲ給シ部内限委任官待遇トス

下村 健一

横須賀海軍工廠造機部ニ於ケル業務ヲ囑託ス

海軍公報 第三千九十九號 昭和十二年十一月十七日

六九五

但シ報酬年額千參百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

北 直 次

横須賀海軍工廠造兵部ニ於ケル業務ヲ囑託ス

但シ報酬年額千參百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

相 田 八 之 助

横須賀海軍工廠光學實驗部ニ於ケル業務ヲ囑託ス

但シ報酬年額千貳拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

力 丸 信 夫

吳海軍工廠造船部ニ於ケル業務ヲ囑託ス

但シ報酬年額千貳拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

小 林 金 吾

吳海軍工廠砲煩實驗部ニ於ケル業務ヲ囑託ス

但シ報酬年額千貳拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(以上其間海軍省)

○ 雜 款

○進水
本月十六日軍艦飛龍横須賀海軍工廠ニ於テ、驅逐艦蔽舞鶴海軍工廠ニ於テ孰モ進水セリ

支那事變戰死者故海軍少佐南部德盛外二十八名ノ合同海軍葬儀ヲ來二十二日午後二時横須賀海兵團ニ於テ佛式ニ依リ執行

海軍公報

第三千二百號

昭和十二年十一月十八日(木)
海軍大臣官房

○通牒

官房第五八四八號

昭和十二年十一月十八日

海軍省 副官

關係各廳長殿

自動車ノ運轉免許及就業免許ノ特例ニ

關スル件通知

首題ノ件ニ關シ左記ノ通牒有之候

記

警保局警發乙第六〇五號

昭和十二年十月二十八日

内務省警保局長

海軍省軍務局長殿

海軍省人事局長殿

自動車ノ運轉免許及就業免許ノ特例ニ

關スル件

今般内務省令第四十五號ヲ以テ標記ノ件別紙ノ通公布

海軍公報 第三千二百號 昭和十二年十一月十八日

六九七

相成候處本令ハ今次事變ニ際シ陸海軍ニ召集、徵用又ハ雇傭セラレタルニ因リ自動車ノ運轉免許ノ有効期間満了ノ際繼續免許ヲ受クルコト能ハザル者及之ガ爲就業免許ヲ消滅スルニ至レル者ニ對シ試験ノ全部又ハ一部省略ノ特別ノ取扱ニ依リ従前有シタルト同様ノ免許ヲ與ヘ以テ召集、徵用又ハ雇傭解除後ノ生活上ノ不安ヲ除去セントスル主旨ニ有之候條關係ノ向ニ對シ之ガ周知方可然御配慮相煩度
追而之ガ取扱ニ關シ別紙ノ通り應府縣長官宛通牒致置候條御參考上及送付候

(別紙)

内務省令第四十五號

省略(十月二十三日官報六五七頁參照)

(別紙)

警保局警發甲第一二八號

昭和十二年十月二十三日

内務省警保局長

各廳府縣長官殿

自動車ノ運轉免許及就業免許ノ特例ニ

關スル件通牒

今般内務省令第四十五號ヲ以テ「自動車ノ運轉免許及就業免許ノ特例ニ關スル件」公布即日施行相成候處右ハ今次事變ニ際シ陸海軍ニ召集、徵用又ハ雇傭セラレタルニ因リ運轉免許ノ有効期間満了ノ際更ニ運轉免許ヲ受クルコト能ハザル者ニ對シ召集、徵用又ハ雇傭解除後特別ノ取扱ヲ爲サントスル主旨ニ有之是ガ施行ニ當リテハ左記各號ニ御留意相成度

記

一、本令ハ左記各場合ニ適用スルコト

イ 繼續運轉免許ヲ申請シタルモ召集、徵用又ハ雇傭セラレタルタメ當該召集、徵用又ハ雇傭期間中

ニ有効期間満了シ結局繼續運轉免許ヲ受クルコト能ハザル場合

ロ 召集、徵用又ハ雇傭サレタルタメ繼續運轉免許ヲ申請スルコトヲ得ズ當該召集、徵用又ハ雇傭期間中

ニ有効期間満了シ結局繼續運轉免許ヲ受クルコト能ハザル場合

ハ 召集、徵用又ハ雇傭解除後繼續運轉免許ヲ申請

スル邊ナク有効期間満了シ結局繼續運轉免許ヲ受クルコト能ハザル場合

二、運轉免許ノ試験ノ省略ニ關スル取扱ハ昭和八年九月十六日警保局警發甲第七八號警保局長通牒中「二十一」(繼續運轉免許)ニ準ズルコト

三、召集、徵用又ハ雇傭前提出シタル繼續免許申請書ハ便宜其ノ儘之ヲ本令ニ依リ提出シタル申請書トシテ取扱ヒ支障ナキコト

四、本令ニ雇傭トハ運轉免許ヲ有スルニ依リ陸海軍ニ雇傭セラレタル者ニ限ルコト

五、運轉免許ノ申請アリタルトキハ特別ノ考慮ヲ拂ヒ速ニ免許ヲ與フルコトトシ以テ召集、徵用又ハ雇傭解除後ノ生活ノ不安ナカラシムル様努ムルコト

(參照) 昭和八年九月十六日警保局警發甲第七八號警保局長通牒中「二十一」(繼續運轉免許)

二十一第四十二條(自動車取締令) 本條ノ適用ニ關シテハ大體左記ニ依リ取扱フコト

第一項第一號ニ該當スル者

イ 現在免許ノ有効期間中交通關係法規ノ違反ニ依リ三回以上ノ處分ヲ受ケザリシ者ハ無試験トス

ロ 右期間中前號ノ處分ヲ受ケタル者ハ法規ノミ試験ス但シ情狀

ニ依リ無試験トナスコトヲ得

ハ 右期間中交通關係法規ノ違反ニ依リ顯著ナル處分ヲ受ケタル者ニ付テハ右ノ外狀況ニ依リ運轉技能ニ付試験ヲ行フモノトス

ニ 既往六ヶ月以内ニ運轉ノ事實ナキ者ハ運轉技能ノミニ付簡單ナル試験ヲ行フ

自動車取締令第四十二條左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ付テハ前條ノ規定ニ依ル試験ノ全部又ハ一部ヲ省略スルコトヲ得

一、現ニ運轉免許ヲ有シ運轉免許ノ有効期間満了後引續キ自動車ヲ運轉セントスル者

(以下省略)

○ 雜 款

○ 試験問題發送

第三十九期偵察
第四十二期操縱
練習生採用試験問題本月十七日左記ノ通發送濟

記

一、聯合試験參加不可能ト認メラルル向ニハ直接、其ノ他ハ各海軍人事部長又ハ各要港部副官宛送付セリ
一、行動豫定變更等ノ爲所要ノ分トシテ若干部數前記

各官宛送付シアリ未着ノ向ハ前記又ハ横須賀海軍航空隊宛通知相成度

(横須賀海軍航空隊)
(霞ヶ浦海軍航空隊)

○ 入隊期日

來十二月一日任命セララルベキ當隊特修科學生ハ十二月六日始業式ニ付其ノ前日迄ニ入隊セシメラレ度

(横須賀海軍航空隊)

海軍公報

第三千二百一號

昭和十二年十一月十九日(金)

海軍大臣官房

○令達



官房第五八八四號

來二十三日新嘗祭ニ付在京親任官同待遇、勅任官同待遇ハ同日午後五時三十分賢所參集所ニ參集スベシ

服裝 正裝 大禮服

昭和十二年十一月十九日

海軍大臣

○辭令

海軍造船大佐 村上 義次
特別俸ヲ賜フ(海軍省)

海軍主計中佐 奥田 司

第一課兼第二課第三課勤務ヲ命ス(海軍省軍需局)

○雜款

○米國驅逐艦「ブルマー」行動豫定變更(十一月九日)
米國驅逐艦「ブルマー」横濱碇泊期間ヲ十一月二十三日迄延期ノコトニ變更セラレタリ

海軍公報 第三千二百一號 昭和十二年十一月十九日

海軍公報

第三千二百二號

海軍大臣官房

昭和十二年十一月二十日(土)

○辭令

○昭和十二年十一月二十日

内閣屬 瀬島 好友

任海軍書記

給五級俸

藤原 吟藏

任海軍書記

給月俸六拾圓

金子 元寅

陸軍歩兵少尉正八位

井上 溥

橋元 恒久

上中 政親

八木谷 慶夫

村越 貞治

任海軍技手

給六級俸

(各通)

任海軍技手

給月俸七拾圓

大橋 源太郎
益子 透
砂塚 弘道
藤川 利三次
須々木 小三郎
渡邊 市郎

(各通)

横須賀海軍工廠附ヲ命ス	海軍書記	瀬島 好友
吳海軍經理部附ヲ命ス	同	藤原 吟藏
佐世保海軍工廠附ヲ命ス	海軍技手	金子 元寅
	同	井上 溥
	同	橋元 恒久
	同	上中 政親
	同	八木谷 慶夫
吳海軍工廠附ヲ命ス	同	村越 貞治
舞鶴海軍工廠勤務ヲ命ス	同	金子 元寅
海軍技術研究所附ヲ命ス	同	上中 政親
	同	八木谷 慶夫

海軍公報 第三千二百二號 昭和十二年十一月二十日

七〇三

吳海軍建築部勤務ヲ命ス 同 村越 貞治
吳海軍工廠附ヲ命ス 同 大橋 源太郎

海軍技術研究所勤務ヲ命ス 同 益子 透

(各通) 同 砂塚 弘道
同 藤川 利三次

横須賀海軍工廠附ヲ命ス 同 須々木 小三郎

廣海軍工廠勤務ヲ命ス 同 渡邊 市郎

横須賀海軍工廠勤務ヲ命ス(以上 社務 海軍省)

○ 雜 款

○進水
軍艦千代田十一月十九日吳海軍工廠ニ於テ進水セリ
驅逐艦霞十一月十八日浦賀船渠株式會社ニ於テ進水セリ

0793



海軍公報 第三千二百三號

昭和十二年十一月二十二日(月)
海軍大臣官房

○令達

官房第五九二三號 昭和十二年官房第二四三三號

支那事變ノ爲滿洲國ニテ本館駐在
支那河北省又ハ關東州沿岸ニ行
働スル艦船ノ衛兵若ハ當直員等ニシテ甲板上ノ業務ニ
従事スル者ニハ昭和十年官房第四八七號ニ依リ貸與
スル半長靴ニ代ヘ特製防寒長靴ヲ貸與スルコトヲ得

昭和十二年十一月二十二日

海軍大臣

○辭令

工 手 稻森 豊吉

部内限判任官ヲ以テ待遇セラル(工手)海軍航空本部)

海軍公報 第三千二百三號 昭和十二年十一月二十二日

七〇五

海軍公報 號外

昭和十二年十一月二十二日(月)
海軍大臣官房

○勅語

官房第五九二二號

本日永野聯合艦隊司令長官並ニ長谷川支那方面艦隊司令長官ニ左ノ勅語ヲ賜ハリタリ

昭和十二年十一月二十日

海軍大臣

永野聯合艦隊司令長官ニ

賜ハリタル勅語

聯合艦隊ハ久シキニ互リテ艱難ヲ凌キ制海ノ實權ヲ掌握シテ敵ノ交通ヲ遮斷シ克ク陸軍ト策應シテ敵軍ヲ擊碎シ皇威ヲ中外ニ宣揚セリ朕深ク其ノ忠烈ヲ嘉ニス爾等益々奮勵ヲ加ヘ以テ朕ノ信倚ニ副ハムコトヲ期セヨ

長谷川支那方面艦隊司令長官ニ

賜ハリタル勅語

支那方面艦隊ハ堅忍力闘事變發生ノ際ニ善處シ克ク陸軍ト協力シテ上海方面ニ敵軍ヲ擊破シ或ハ長驅敵ノ要地ヲ衝キテ其ノ航空機ヲ殲滅シ其ノ諸陣營ヲ毀碎シ或ハ支那沿海ヲ擧壓シテ敵ノ交通ヲ遮斷シ以テ皇軍ノ威武ヲ中外ニ宣揚セリ朕深ク將兵ノ忠烈ヲ嘉ニス願ミテ其ノ死傷者ニ及ヘハ寔ニ忉忉ニ勝ヘス惟フニ前途尙遼遠ナリ爾等益々奮勵ヲ加ヘ以テ戰果ヲ完クセムコトヲ期セヨ

海軍公報 號外

海軍公報

第三千二百四號

昭和十二年十一月二十四日(水)

海軍大臣官房

○通牒

艦本第一五二〇〇號

昭和十二年十一月二十二日

海軍艦政本部長

海軍造船造兵監督長
(首席監督官)殿

民間建造所等ニ於テ海軍用鋼材使用ノ

場合受拂狀況報告ノ件照會

爾今民間建造所等ニ於テ海軍用鋼材需給要項ニ基キ日本製鐵株式會社ヨリ海軍用鋼材ヲ購入シ使用スル場合ハ適宜ノ帳簿ヲ備ヘシメ現品受拂ヲ明ナラシムルト共ニ工事竣工ノ都度別紙様式ニ依リ其ノ受拂狀況ヲ艦政本部長ヘ報告セシメラルル様致度

尙殘材ハ海軍註文工事ニ使用セシムルヲ建前トシ無斷ニ他ノ工事ニ使用セシメザル様致度

(別紙一葉添)

○雜款

○進水

軍艦利根十一月二十一日三菱重工業株式會社長崎造船所ニ於テ進水セリ

○改姓

海軍軍醫少佐山之内庸夫ハ種子田ト改姓ノ旨本月十六日届出テタリ

海軍公報 第三千二百四號 昭和十二年十一月二十四日

七〇七

海軍公報

第三千二百五號

昭和十二年十一月二十五日(木)

海軍大臣官房

○通牒

經調第二〇四號

昭和十二年十一月二十五日

海軍省經理局長

關係各支出官殿

(別紙)

既往年度代價收入濟物品拂出調書

計算證明ニ關スル件通牒

計算證明規程第二十二條第七號ノ規定ニ依ル既往年度代價收入濟ニ係ル物品ノ拂出數量金額調書ハ別紙調書ヲ以テ代用スルコトニ會計檢査院當局ノ同意ヲ得候條爾今右ニ依リ處理相成度

代價收入濟年度	昭和年度	同	經費科目			拂出金額	記事
			款	項	目		
合計							

拂出物品ノ品名別數量金額ハ何應昭和何年度昭和何年何月分(又ハ自何月至何月)支出證憑書類資金所屬物品買入代價仕譯書及同添附證票ノ通

海軍公報・第三千二百五號

昭和十二年十一月二十五日

七〇九

○辭令

- (通各)
- 故海軍航空兵曹長大澤憲藤寡婦
金壹千八百圓 但死亡者一時賜金 大澤 喜美恵
但死者保護賜金
 - 故海軍一等航空兵曹眞塩富司父
金壹千六百圓 但死亡者一時賜金 眞塩 島太郎
但死者保護賜金
 - 故海軍二等航空兵曹荒井 洗父
金壹千四百圓 但死亡者一時賜金 荒井 平七
但死者保護賜金
 - 故海軍二等航空兵曹井上信夫父
金壹千四百圓 但死亡者一時賜金 井上 新吉
但死者保護賜金
 - 故海軍三等兵曹塚田健治父
金壹千貳百圓 但死亡者一時賜金 塚田 興作
但死者保護賜金
 - 故海軍三等兵曹鹿志村 吉母
金壹千貳百圓 但死亡者一時賜金 鹿志村 よて
但死者保護賜金
 - 故海軍三等整備兵曹角皆 實父
金壹千貳百圓 但死亡者一時賜金 角皆 敬一
但死者保護賜金
 - 故海軍三等整備兵曹藤田清次父
金壹千貳百圓 但死亡者一時賜金 藤田 曠助
但死者保護賜金
 - 故海軍一等航空兵松川岩男母
金壹千圓 但死亡者一時賜金 松川 タカ
但死者保護賜金

故海軍一等航空兵石橋一雄父

金壹千圓 但死亡者一時賜金 石橋 權太郎
但死者保護賜金

右大正二年勅令第九號及大正八年勅令第三百七十一號ニ依リ之ヲ給與ス(海軍省)

海軍主計中佐 淺井 益一

國防献金出納官吏ヲ命ス(海軍省經理局)

海軍中佐 關 郁乎

第一課勤務ヲ命ス(海軍水路部)

○雜款

○著任期日

十二月一日任命セラルベキ本校選科學生及講習員ハ十二月十日午前入校式施行ニ付其ノ前日迄ニ著任セシメラレ度 (海軍大學校)

○入校期日

來十二月一日任命セラルベキ當校學生ハ十二月六日〇九三〇始業式ノ豫定ニ付同日〇九〇〇迄ニ著任セシメラレ度 (海軍潜水學校)

海軍公報 第三千二百六號

昭和十二年十一月二十六日(金)
海軍大臣官房

○辭令

海軍航空本部ニ於ケル航空兵器造修ニ
關スル業務囑託

富澤 裕

海軍航空廠兵器部ニ於ケル業務ヲ囑託ス
但シ報酬年額千五百參拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇
トス(註五)海軍省)

海軍機關中佐 矢次 有人

第二課勤務ヲ命ス(註四)海軍省軍需局)

○雜款

○命名式舉行
來十一月二十八日(日曜)午前十時三十分(晴雨ニ不
拘)遞信省東京飛行場ニ於テ左記報國號飛行機ノ命名
式ヲ舉行セラル
記

海軍公報 第三千二百六號 昭和十二年十一月二十六日

七一

機種	數量	報國號	獻納者
九六式 艦上攻撃機	一	報國第一二九號 (燒酎聯盟號)	東京市麹町區丸ノ内 昭和ビル内 全國新式燒酎聯盟會
同右	一	報國第一三五號 (第一日本蠶糸號)	東京市麹町區丸ノ内
同右	一	報國第一三六號 (第二日本蠶糸號)	日本中央蠶糸會
九六式 艦上戦闘機	一	報國第一三二號 (レイトト)	東京市日本橋區馬喰町 レイト化粧料本舗
同右	一	報國第一四七號 (第一樺太號)	樺太島民
同右	一	報國第一四八號 (第二樺太號)	

(海軍省副官)

○米國驅逐艦「パロット」行動豫定變更(十一月九日)
地名 着 發
横濱 十二月二日 十二月六日

○速達郵便物ニ關スル件照會
當隊ハ京都府與謝郡栗田村ニ在リ宮津郵便局集配ニシ

テ郵便區市外ニ所在セルモ當隊宛速達郵便物ハ郵便區市内宛ニ依ル料金添付ノモノ多ク整理上甚ダ困惑致シ居リ候ニ就テハ爾今郵便區市外地宛ニ依ル料金（八軒以内參拾錢）ヲ添付ノ上發送相成度

（舞鶴海軍航空隊）

退役海軍主計大佐正五位勳三等功五級黒田義俊昨二十五日卒去、明二十七日午後一時ヨリ同二時迄東京市豊島區堀之内町一七一自宅ニ於テ佛式ニ依リ告別式執行

海軍公報 附錄

昭和十二年十二月二十六日(金)
海軍大臣官房

本邦駐在外國海軍士官名簿 (昭和十二年十一月十日調)

國別	職	官	勳	氏名	現官任命年月日	着任年月月	宿所	家族
蘇國	大使館附官	中佐		A. Kovaloff	昭和十〇年四月八日	昭和七〇年七月	澁谷、代々木大山、一〇六七(四谷、六〇五二)	夫人
伊國	大使館附官	大佐		Alberto Ghe	昭和十〇年四月八日	同	帝國ホテル(銀座、三二五一)	
佛國	大使館附官	大佐	瑞三	J. Rosati	昭和九二年五月	同	澁谷、豊分、一一一(青山、一六二二)	夫人
英	大使館附官	大佐		H. B. Rawlings	昭和五二年五月	同	赤坂、葛、一五二(赤坂、三五五二)	夫人
	輔佐官	機關中佐		A. D. Merriman	同 一〇年三月	同	赤坂、青山南、一〇四八(赤坂、四〇一八)	夫人
	駐在	大尉		L. C. S. Sheppard	同 五年八月	同	麻布、新龍士、一一一(麻布、一〇六六)	夫人
同		主計大尉		K. Forman	同 六年九月	同	澁谷、千駄ヶ谷、二ノ三四七(三、六六)	
		同		G. C. D. Currock	同 七年七月	同	牛込、市ヶ谷柳、三三二(四、六六)	
		同		C. Parsons	同	同	麻布、筈、二八 岡田方(五、九九)	

海軍公報 附錄

國別	職	官	勳	氏名	現官任命年月日	着任年月月	宿	所	家族
(二) 空軍武官ニシテ海軍武官ニ準シ取扱ヘルモノ									
英國	空軍武官	空軍中佐		R. W. Chappel		昭和一〇	麻布、北目ヶ窪、三二〇	(赤坂四三六〇)	夫人
佛國	同	空軍少佐		M. Bruyere		同 一〇	麻布、西、二二二	(三田四七五九)	夫人
(三) 陸軍武官ニシテ海軍武官ヲ兼務スルモノ									
波蘭	陸軍、海軍武官	陸軍少佐		A. Przyjski	昭和七、一	昭和一〇	麹町、平河、二ノ二十號	(九段四三〇一・四三二〇)	夫人
羅馬	陸軍武官 兼海軍武官 兼空軍武官	陸軍參謀 大佐		G. Begulesco	同 一一、一〇	同 一〇	麻布、新龍土、一一一	(赤坂二五五八)	
(四) 陸軍武官ニシテ空軍武官ヲ兼務セルモノ									
伊國	陸軍武官 兼空軍武官	陸軍參謀 中佐		Giuliano XX, Scalise	昭和九、一〇	昭和九	大森、上池上、一一二	(荏原五六二九)	
(五) 中國大使館附武官劉田市上校ハ目下歸國中									

海軍公報

第三千二百七號

昭和十二年十一月二十七日(土)

海軍大臣官房

○雜款

○命名式舉行
 來十二月五日(日曜)午前十時三十分(晴雨ニ不拘)
 遞信省東京飛行場ニ於テ左記報國號飛行機ノ命名式ヲ
 舉行セラル

記

飛行機名	量數	報國號	献納者
九六式 艦上戦闘機	一	報國第一六二號 (全國青年學校號)	全國青年學校 職員生徒
九六式 艦上爆撃機	一	報國第一六三號 (第一女學生號)	全國女子職業學校長協會 全國高等女學校長協會

(海軍省副官)

後備役海軍少佐正六位勳四等上村貞太十一月二十
 五日死去、明二十八日午後四時熊本縣飽託郡奥古
 閑村二五四二自宅ニ於テ佛式ニ依リ葬儀執行

海軍公報 第三千二百七號 昭和十二年十一月二十七日

9805

海軍公報

第三千二百八號

○ 雜 款

退役海軍大佐正五位勳三等功四級松村豊記本月二十六日卒去、昨二十八日佐世保市城山町常念寺ニ於テ佛式ニ依リ葬儀執行セリ

昭和十二年十一月二十九日(月)

海軍大臣官房

海軍公報 第三千二百八號 昭和十二年十一月二十九日

(號外二頁)七二五

海軍公報 號外

昭和十二年十一月二十九日(月)
海軍大臣官房

○ 令 達

官房第六〇四〇號

昭和八年官房第一九二三號中左ノ通改正ス

昭和十二年十一月二十七日

海 軍 大 臣

第一號 (イ)ノ部中

同シャツノ項ヲ左ノ如ク改ム

同	シャツ	三個	地質褐青色ポプリン、「ネクタイ」ヲ附ス
褐青色	帽日覆	二個	地質褐青色羽二重金巾、軍帽ヲ用フルトキニ限り使用ス

兵褐青色夏衣乃至陸戰隊用兵軍帽ノ項ヲ左ノ如ク改ム

兵褐青色	夏衣	二個	下士官用ニ同ジ但シ釦ヲ附セズ
同	夏袴	二個	下士官用ニ同ジ

兵ニ貸與ス

海軍公報 號外

同 夏襦袢 三個 地質褐青色薄綾木綿、兵夏襦袢ニ同ジ

防 暑 帽 一個 防 暑 帽 乃 至 褐 青 色 卷 脚 絆 ノ 項 ヲ 左 ノ 如 ク 改 ム

防 暑 帽	一個	准士官以上、下士官及兵ニ貸與ス	褐青色ヘルメット型、鍔ニ櫻花ヲ配シタル銀色金屬ノ前章ヲ附ス
戰 闘 帽	一個	准士官以上、下士官及兵ニ貸與ス	褐青色絨製、黃絨鍔ノ前章ヲ附ス
褐青色卷脚絆	一組	准士官以上、下士官及兵ニ貸與ス	褐青色絨製、編上靴又ハ護謨底紺足袋ヲ用フルトキニ限リ使用ス

同號(ロ)ノ部中

准士官以上劔帶ノ項ノ次ノ如ク加フ

戰 闘 帽	一個	准士官以上、下士官及兵ニ貸與ス	厚セルジ製、他ハイニ同ジ
-------	----	-----------------	--------------

黒色卷脚絆ノ項中「編上靴」ノ下ニ「又ハ護謨底紺足袋」ヲ加フ

第三號中「防暑帽、」ノ下ニ「戰闘帽、」ヲ加フ

附 則

従前ノ規定ニ依リ調製シタルモノハ貯藏品ノ在ル限り之ヲ混用スルコトヲ得

(参照 昭和八年官房第一九二三號ハ陸戰隊隊裝ニ關スル件ナリ(會計法規中卷 一六五ノ三頁))

0808

海軍公報

第三千二百九號

昭和十二年十一月三十日(火)
海軍大臣官房

○ 辭 令

海軍軍事普及事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス
山端啓之助
(海軍省)

海軍公報 第三千二百九號 昭和十二年十一月三十日

七二七